

## 口吉川地区意見交換会 議事録

- 1 日 時 令和3年12月3日(金)  
午後7時00分～8時05分
- 2 場 所 口吉川町公民館中会議室
- 3 参加者 口吉川地区 16人  
市 6人(市長、副市長、副市長、総合政策部長、  
市民生活部長、企画政策課長)

### 4 内 容

- (1) 地区からの意見・提言及び市からの回答

別紙のとおり

- (2) 意見交換

ア 口吉川地区の買い物支援 移動販売車の誘致について

#### 【口吉川地区】

コープこうべから、人口の少ない地域への移動販売車の導入については、採算が取れず難しいことなどから、買い物行こカーによる店舗への送迎を提案いただいた。買い物行こカーは、もともと新興住宅地等の人口の多い地域で始まった制度であり、毎日・毎週買い物に行く住民にはなじんでいる。しかし、農村地域である口吉川地区は、米や野菜を栽培していたり、もともと商店が少ないので、毎日買い物に行くという習慣のない高齢者は多いと思う。現在、誰かに乗せて行ってもらったり、代わりに買ってきてもらうなどしているが、時々自分で買い物をしたいという高齢者にとっては、毎週乗らなければならない買い物行こカーはハードルが高いのではないか。月に1回や夫婦での利用も可能といった柔軟な対応をお願いしたいと考える。地域としては、買い物支援の一つのツールとして制度周知や参加人数の確保に努めるが、買い物行こカーだけでなく移動販売車の誘致についても引き続き市の支援をいただきたい。

#### 【口吉川地区】

地域としては移動販売車の誘致を要望しており、移動販売車の運行に向けて引き続きさまざまな事業者に働きかけていきたいと考えている。蓮花寺地区はバス停から約2km離れており、高齢になり車も自転車も乗れなくなれば非常に困

る地区である。移動スーパーとくし丸等の取組も参考に、地域住民の期待に応えられるよう今後も取り組んでいきたい。

**【市民生活部長】**

地域として移動販売車を要望する中、コープこうべから新たに買いもん行こカーの運行を提案いただいたことは、地域としての選択肢が広がったと認識している。移動販売車は積載できる品物数が400個から800個程度である一方で、買いもん行こカーでコープ緑が丘店に行くと15,000種類の品物の中から選んで買うことができる。家から店舗まで送っていただき、また家まで送ってもらえる仕組みは画期的であり、買い物を楽しむという観点では、買いもん行こカーと個別配送を活用することが現状に即しているのではないかと考える。市としても引き続き協力したいと思うため、移動販売車と買いもん行こカーの差についてはご理解いただきたい。

**【口吉川地区】**

品物の数で優劣を決めるのではなく、店舗に行きたい人は買いもん行こカーで送迎してもらい、足を運ぶのがしんどい人は地域に来た移動販売車の中から選んで買うなど、住民のさまざまな意見を汲み取っていただきたい。

**【市長】**

おっしゃるとおり、移動販売車や買いもん行こカーなどさまざまな選択肢があることがベストであると考えます。コープこうべから買いもん行こカーの運行を提案いただいたため、地域として運行をお願いするのであれば、利用者の確保に取り組む必要がある。毎週乗車することが難しいのであれば、例えば細川地区と協議し、2地区で隔週運行いただくことをコープこうべに提案してみることも一つの案である。可能かどうかわからないが、公民館の地域まちづくり担当と一緒に検討いただきたい。

**【口吉川地区】**

コープこうべとしては、口吉川地区で特別な取扱いをしてしまうと他地区においても柔軟に対応せざるを得なくなることを危惧しているように思う。総利用者数を増やすためにも月1回の利用や家族での利用を可能とするような柔軟な

対応をお願いしたいが、まずは運行を開始してもらうことが重要であることから、引き続き市として支援いただきたい。

**【市長】**

コープこうべも規模の大きな事業者であるため、行政と同様にリスクの少ない状態から始めたいと思う。どのような運行形態であればよりよい形となるか、運行開始後に検討いただきたい。

**【口吉川地区】**

小さな商店等であればすぐに決められることでも、大きな事業者であれば本部の意向等調整が難しいと思われる。

**【市民協働課長】**

小野市の一つの地域では、移動販売車の利用者確保のために抽選会を開催するなど努力されていると聞いた。移動販売車も買いもん行こカーも、運行を地域として支えていくことは大変である。市としても公民館と一緒に支援等について考えていきたいので、今後ともよろしくお願いしたい。

イ テレビ組合への支援について

**【口吉川地区】**

口吉川地区のテレビ組合は設立から数十年が経過しており、施設が非常に老朽化している。5年以内に対策しなければ、落雷等により改修不能の状態になるのではないかと気がでない。過疎地域等の難視聴地域については、公共により有線放送等を整備されている場合が多く、口吉川地区のように地域の任意団体が大きな施設を整備し管理している事例は余り見受けられない。既に口吉川地域全域にe0光回線が敷設され、いつでも加入できる状態であるため、現在は難視聴地域に該当しなくなっており、テレビ組合として組合の施設を更新するか廃止するかを選択を迫られている。現在月額600円でテレビを視聴できているが、光回線に移行すると月額1,700円から1,800円程度かかることに難色を示す高齢者もいる。金銭的支援について市としても知恵を絞っていただきたい。

**【口吉川地区】**

テレビ組合として、企画政策課に作成いただいた金銭的な

シミュレーション資料をどのように活用して現状を打開するか検討の上、明確な方針を決定する必要がある。市として存続を支援いただけるのであればいいが、いずれ組合が存続できなくなるのは目に見えているため、判断に苦慮している。

【口吉川地区】

テレビ組合の問題が解決するまで区長をやめられない。

【口吉川地区】

この間、関係機関の方々等に相談したりしてきたが、解決策が見いだせないのが実情であるが、少なくとも解決に向けた方針が定まるまで取り組みたいので、市としても支援をよろしくお願いしたい。

【総合政策部長】

昨年12月に意見交換会を開催し、光回線に変更した組合や解散した組合など、組合によってさまざまな状況であることがわかった。市としては、既に自己資金で解散した組合とのバランスに鑑み、特定の地域のみ補助することが難しい。国で補助制度を整備いただけないか市長会を通じて要望しようとしたが、他市から賛同いただけなかった。引き続き市としても努力するため、提案させていただいた積立金のシミュレーションをもとに地域で検討の上、方針を決定いただきたいと思う。

【口吉川地区】

全国的に探すと同様の地域はあると思うが、難視聴地域となるような地域は山間部等田舎であるため、全国的な課題として認知されていないのだと思う。

【総合政策部長】

西脇市では同様の課題があると聞いているが、他の地域については表面化していないのかもしれない。

## ウ 地区の存続について

【口吉川地区】

口吉川地区は古くから農村地域であるが、子どもの頃と比べて空き家や耕作放棄地が増えているのを見ると、地域の未来が不安になる。市独自策として山田錦農家へ補助金もいただいたが、コロナ禍で農家の収入も大きく減少し、農業だけ

で生活するのは難しい。働く場の確保として企業誘致等に取り組まれているが、口吉川地区には反映されていない印象がある。地域を活性化できなくとも、現状を維持できればベストだと考える。過疎地ではあるが、魅力ある口吉川地区のため、市としてもご協力いただきたい。

#### 【総合政策部長】

若年層の減少により子どもの数が減っていくという悪循環に全国的に陥っているため、人口を増やすためには他市からの移住者を増やすしかない。ただし、田舎で暮らしたい都市部の方がいらっしゃる一方で、田舎は移住者に対して拒否感を抱く傾向があるため、口吉川地区で人口を維持するためには、移住者を受け入れる体制づくりを検討いただく必要がある。なお、ひょうご情報公園都市の整備により志染地区の人口が増えたわけではないため、地区への企業誘致と人口増加は直接結びつかないことをご理解いただきたい。口吉川地区の魅力はのどかな農村地域の風景等だと認識しており、総合計画や都市計画マスタープランの中でも農村地域として位置づけているため、どのような魅力を発信して移住につなげていくか、地域と一緒に話し合っていきたい。

#### 【市長】

全国的に人口減少が進む中、三木市はこのまま何もしないと2060年には人口が4万人を下回るとされている。何とか5万人程度までの減少に留めるため、三木市で教育を受けさせたいと思える教育環境の整備や、ひょうご情報公園都市の整備による雇用の確保等に取り組んでいる。地域の未来について正解はないため、地域からもご意見いただきながら一緒に考えていきたいと思う。

#### 【口吉川地区】

ひょうご情報公園都市の整備にあたっては、三木市と言えばITだと言われるほどIT分野に力を入れていただきたいと思う。口吉川地区においては、買い物支援やテレビ組合等の地域課題が多い。口吉川地区を都市化することは難しくても、よりよいまちづくりのため、地域に投資いただきたい。

#### 【口吉川地区】

口吉川地区の人口は50年前と比較すると約1,000人減

少しているものの世帯数は減っていないことから、若年層の流出が人口減少の原因であり、いかに若年層を地域に残すかが重要であると考えます。口吉川地区は、神戸市や明石市等にも通いやすく、夜も静かで暮らしやすい魅力的なまちである。地域としても活性化に向けた自助努力はするので、市としてもサポートいただきたい。

#### 【口吉川地区】

都市部から蓮花寺地区に移住してきた方は、3日間テレワークし、2日間出社するなどの新しい働き方で大阪の会社に勤められている。テレワークで仕事をしながら静かなまちで暮らしたいという方が移住しやすいよう、家賃補助や市が管理する借家の提供等、さまざまな工夫が考えられると思う。口吉川地区は住みよいまちだと思っていただけるよう、地域の魅力を多くの方にアピールすることが重要である。豊かに暮らしていくためにどうすればいいのか、知恵を絞って取り組んでいく必要があると考えます。

#### 【市長】

三木市の魅力はたくさんある。テレワークの環境もよく大阪や神戸にも通える場所であるため、教育を受けさせたいと思える教育環境の整備や、働く場の確保として5Gに対応したひょうご情報公園都市の整備等、きっちり取り組んでいく。都会に近い田舎として三木市の魅力を発信し、今後もさまざまなご意見をいただきながら進めていきたい。

#### 【口吉川地区】

この意見交換会の場に3人の女性職員がいるが、地域側には女性の区長がいない。東中地区に3人の子どもがいるご家庭が移住してこられたが、そのような若い世帯がいなければ地域は成り立たない。女性が活躍できる場所づくりだけでなく、女性が住みやすい、居心地のいいまちであることが重要であると考えます。

#### 【市長】

女性区長については、吉川地区、口吉川地区、細川地区等では見受けられないが、自由が丘地区や緑が丘地区では常に数人いらっしゃるほか、前年度までの区長協議会連合会長も女性である。地域性により難しい場合もあるかと思うが、ま

ずは各自治会において女性区長の誕生についても検討いただきたい。